

をうんだ。その中の2例を挙げると、3時間に22回転で130卵、4.5時間で29回転230卵であった。産卵開始が近づくと抱接中の個体の呼吸上昇の間隔が縮ってくる。産卵開始の前に1—10回くらい産卵を伴わない空回転をする。1回の産卵数は大体10個以内で数個のことが多いが、終に近づくと産卵数は少なくなる。産卵終了後すぐに抱接をやめるものもあり、さらに2時間くらい抱接をつづけるものもある。雄が抱接をやめる前にみられる雌の release vibration 行為は1回の場合が多いが5回のこともあった。卵は背皮に付着後2日で埋没して育房が形成されるが、飼育状態下では多くの胚がまもなく育房から脱落する。脱落のピークは埋没した日からその3日後あたりにあり、産卵後7日くらいで脱落すべきものの殆んどは脱落する。このパターンには個体差もあるように見える。胚のすべてが脱落后、背皮のふくらみが消失する迄の日数は23—27°Cでは0—8日の範囲にあり、例外的には20日に及ぶものもある。幼生は変態して育房から離出するが、これは水温26.5°Cでは52—56日齢でおこり、平均では体長15.6mm、体重0.41gであった。これらを23.5°Cで飼育すると最初の5ヶ月は成長は急速で、5ヶ月後には81mm、57gとなったが、その後成長はゆるやかとなり、8ヶ月では90mm、62gであった。変態後5ヶ月の個体の精巣では精原細胞が細精管をみたしているが、ごく一部に精子形成の進行があり精子もみられた。間質組織の発達は殆んど認められなかった。

#### 9. 上対馬のアムールカナヘビについて

竹中 踐 (筑波大・生物)

On *Takydromus amurensis* of Tsushima Island. Sen Takenaka

長崎県上県郡佐須奈周辺において捕獲した10個体のアムールカナヘビの外部形質を検討した。咽頭板・眼下板より前の上唇板・腹板列数・腹板数はこれまで報告された大陸産のアムールカナヘビおよびカナヘビ (*T. tachydromoides*) と同数であった。しかし鼠蹊孔は4対の個体が多く、大多数が3対である大陸産のものとは異なる。このことは柴田保彦氏によっても以前に報告されている。ところで鼠蹊孔数が右3、左4である雌の1腹から生まれた子の鼠蹊孔は3対もつものが2個体、4対もつものが2個体であった。この例から3対と4対の鼠蹊孔の遺伝的性質がうかがい知れる。なお本調査の採集地の環境は佐須奈—舟志間の舗装道路およびトンネルの建設によって変化しつつある。

#### 10. 台湾産アオスジトカゲの変異

疋田 努 (京大・理・動物)

Variations of *Eumeces elegans* in Taiwan. Tsutomu Hikida

台湾に分布するトカゲ属2種のうち、アオスジトカゲについて、鱗相・体色・プロポーション等の変異を調査した。採集地は7地点、総数147匹である。但し、変異の分析には比較的数の多い埔里・天祥・高雄・澎湖の4地点のものを主に用いた。

1. 澎湖 第4趾趾下板数が他の地点のものに比べ少ない。幼体色は雌雄とも2才の成熟に伴って失われる。成体の背面は明るい薄茶色。成熟サイズは小さく、四肢、第4趾は最も短い。雄成体では吻が短かく、側頭部が大きい。

2. 高雄 成熟サイズ、プロポーションとも澎湖産のものに良く似ている。体色には性差が見られ、雌で幼体色の消失が遅れる。成体の背面の地色は褐色。

3. 埔里、天祥 雄でも幼体色の消失が遅れ雄成体でも幼体色を残すものがある。尾ばかり